

第3章 事業実施想定区域及びその周辺地域の概況

事業実施想定区域は図 3-1(1)のとおり、名古屋市南区に位置し、山崎川と天白川に挟まれた区域である。周辺には JR 東海道本線、JR 東海道新幹線、一般国道 1 号が並行しており、主要市道名古屋環状線、主要市道東海橋線等の主要道路と交差している。

事業実施想定区域の桜、本笠寺、本星崎の各駅はいずれも普通列車のみの停車であるが、朝の混雑時には 8 両編成の普通列車が運行されて、多くの乗客に利用されている。本笠寺駅は笠寺観音の最寄り駅として利用されており、南区役所へも徒歩 10 分圏内に位置している。日本ガイシスポーツプラザへも徒歩 15 分圏内で、スポーツやコンサート、イベントが開催されるときには JR 笠寺駅とともに観客輸送に利用される。また、本星崎駅は愛知県立名南工業高等学校の最寄り駅として多くの通学生に利用されている。

事業実施想定区域及びその周辺地域の概況(地域特性)について文献等により調査した。なお、地域特性は「自然的状況」と「社会的状況」に分けて整理した。

調査地域は表 3-1、図 3-1(2)のとおりである。

その根拠については、本事業の実施により騒音レベルが一定以上変化することが予想される範囲(近接軌道の中心線より 100m 程度)を含む地域とし、地域社会の単位(学区、町丁目界等)及び道路、鉄道の位置を考慮し、設定した。

なお、収集するデータは平成 30 年 8 月末時点で入手できるものを基本とした。

表 3-1 調査地域

区	学区等
南区	菊住学区の一部、桜学区の一部、呼続学区の一部、春日野学区の一部、大磯学区の一部、笠寺学区の一部、星崎学区の一部
緑区	鳴海学区の一部

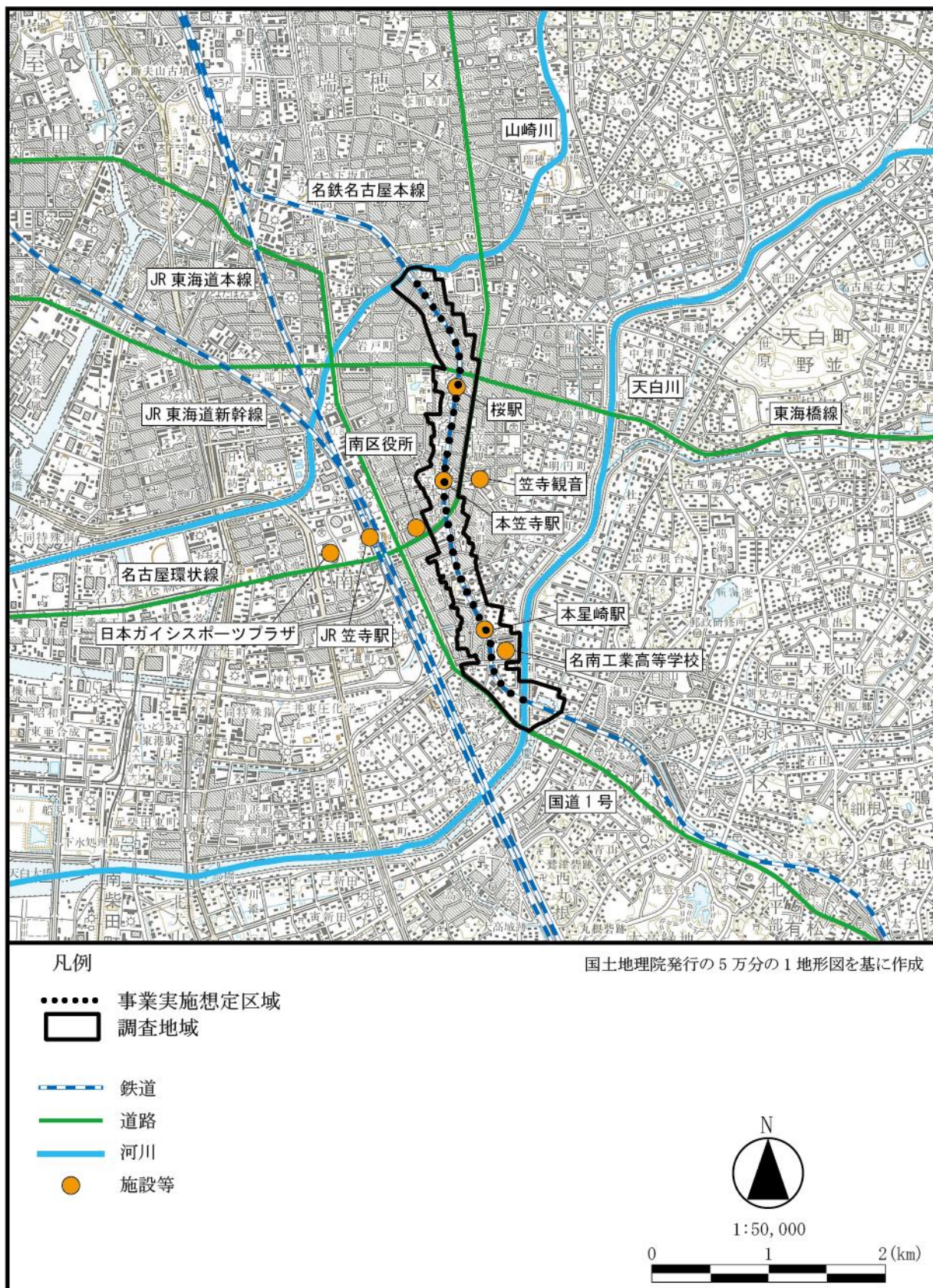


図 3-1(1) 事業実施想定区域及びその周囲の概況

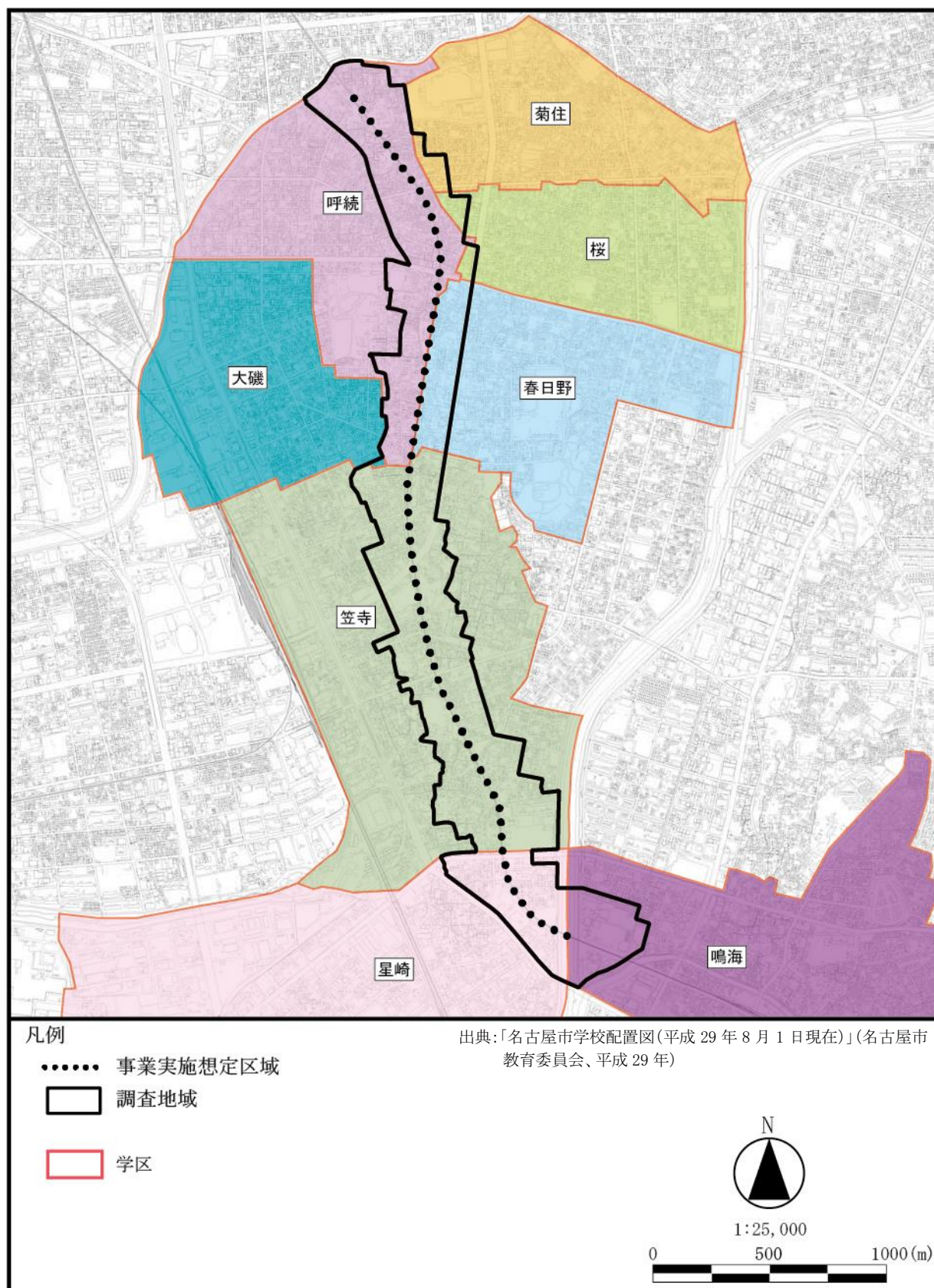


図 3-1(2) 事業実施想定区域及びその周囲の概況

3-1 自然的状況

3-1-1 地形・地質等の状況

(1) 地形

調査地域周辺における地形の状況は図 3-1-1 のとおりである。

事業実施想定区域は天白川、山崎川にはさまれた地域に位置している。

調査地域周辺では盛土地などの人工改変地が多くを占めており、自然地形は川沿いの自然堤防、砂州・砂堆など沖積平野、やや小高くなっている更新世段丘などが残っている。

なお、事業実施想定区域は、更新世段丘、盛土地などとなっている。

(2) 地質

調査地域周辺における地質の状況は図 3-1-2 のとおりである。

天白川、山崎川の周辺等水辺沿いでは主に自然堤防、河道堆積物など沖積層であり、やや小高くなっている場所では更新世の熱田層、八事層などとなっている。

なお、事業実施想定区域は、熱田層、沖積層などとなっている。

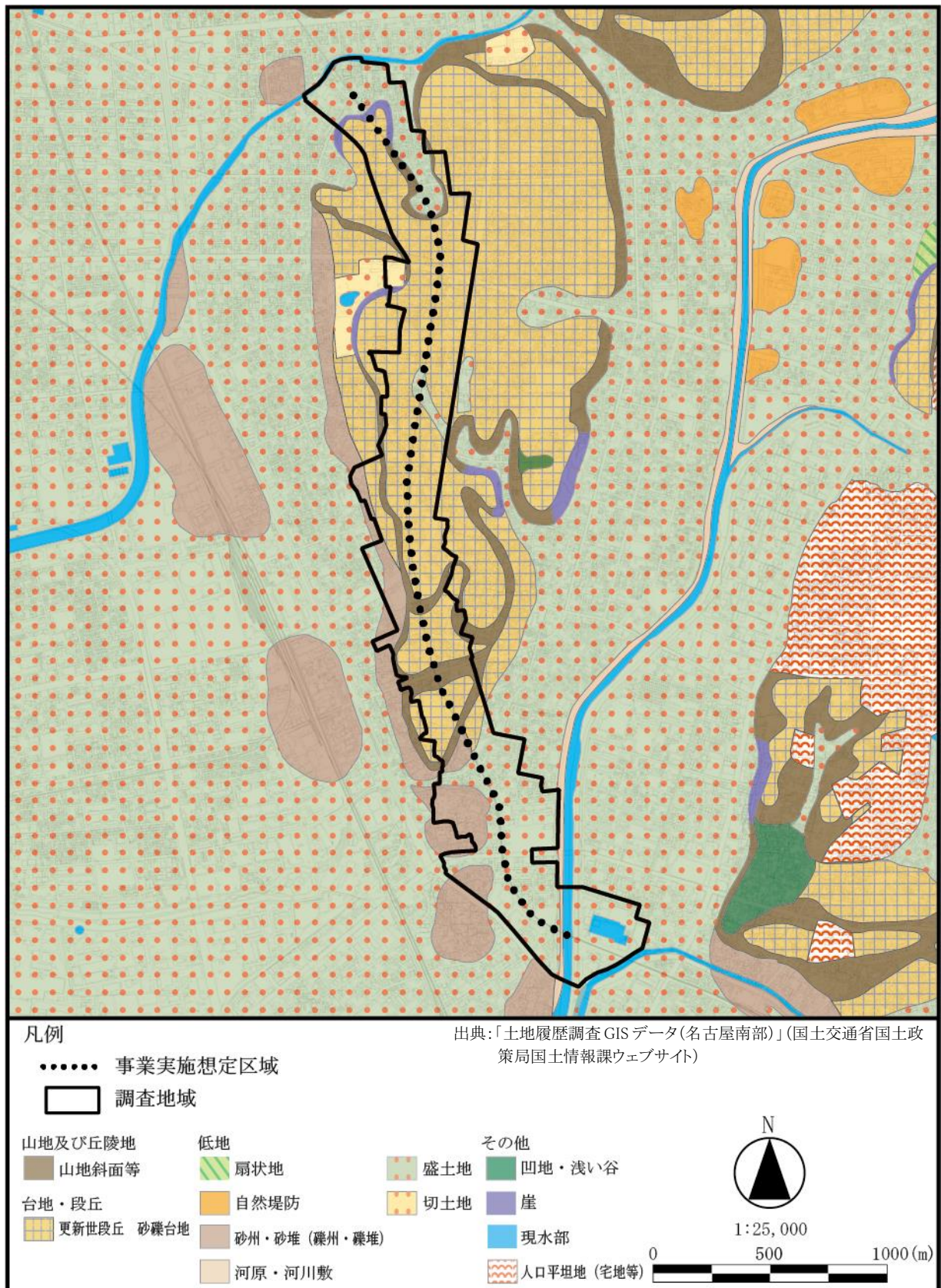


図 3-1-1 地形分類図

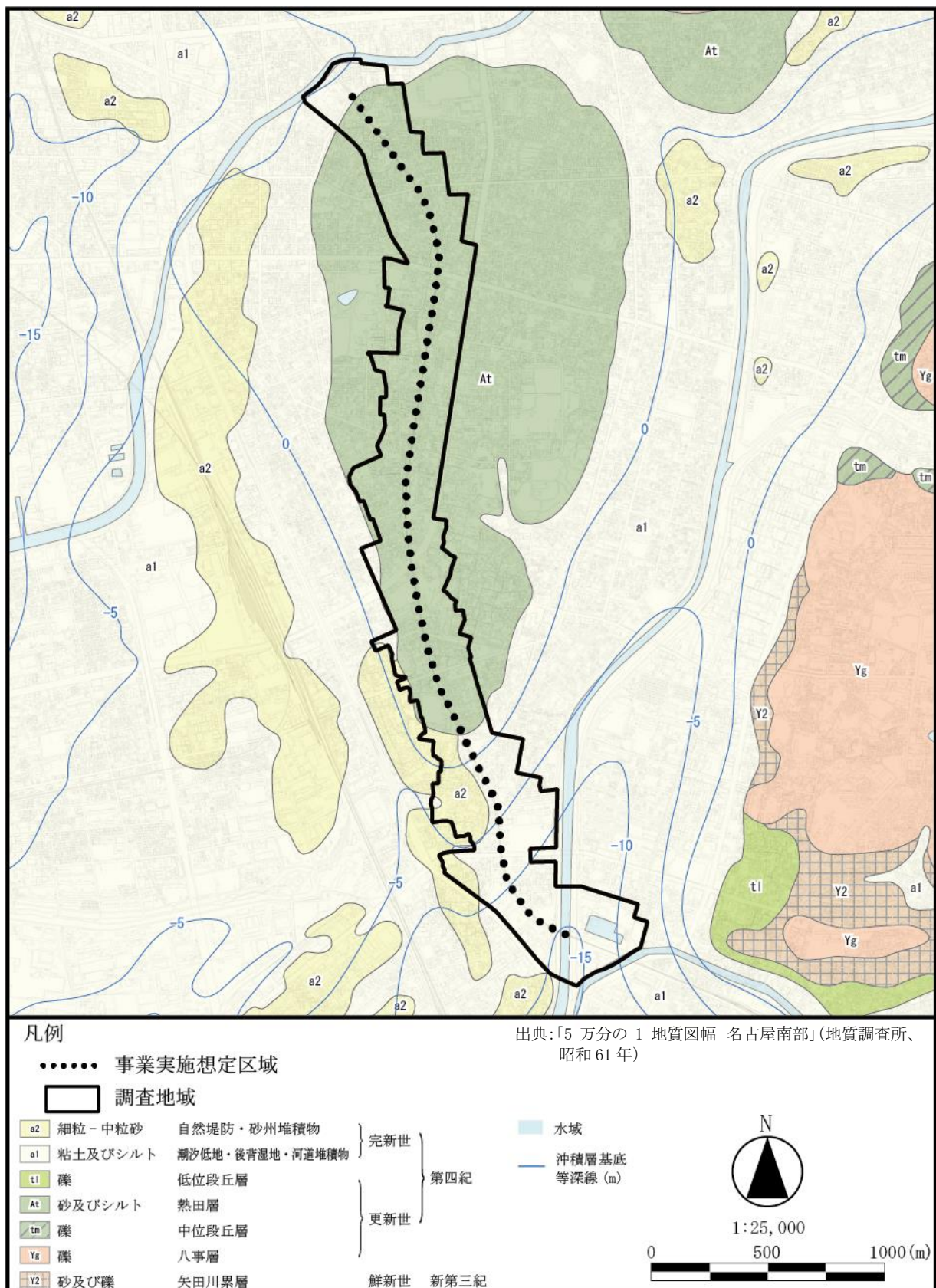


図 3-1-2 表層地質図

(3) 地盤

調査地域周辺における地盤沈下の状況を表 3-1-1、水準点の位置を図 3-1-3 に示す。

平成 28 年度の測量結果では、地盤沈下の目安とされている 1 年間又は 1 年当たりで 1cm 以上沈下した水準点はない。

表 3-1-1 地盤沈下の状況(平成 28 年度)

管理機関	名称	年間沈下量(mm)
国土地理院	173-1	—
名古屋市	N3	4
	N4	4
	N59	—
	N70	3

注)「—」は出典に記載がないことを示す。プラスの値は隆起していることを示す。

出典:「平成 28 年度濃尾平野地域地盤沈下等量線図」(東海三県地盤沈下調査会、平成 29 年)

(4) 土壌等

調査地域周辺における土壌の状況を図 3-1-4 に示す。

調査地域周辺における土壌は、多くが市街地、人工改変地などであり、自然土壌は台地及び低地土壌に属する灰色低地土壌、細粒灰色低地土壌が一部に分布している。

調査地域において、「土壌汚染対策法」(平成 14 年法律第 53 号)に基づく要措置区域、形質変更時要届出区域は指定されていない。

また、名古屋市環境保全条例に基づく措置管理区域、拡散防止管理区域はないが、形質変更時届出管理区域が 1 箇所指定されており、概要を表 3-1-2 に示す。

調査地域において、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」(昭和 45 年法律第 137 号)に基づく指定区域はない。

また、土壌に係るダイオキシン類の調査結果を表 3-1-3 に示す。平成 29 年度は南区天白町の千鳥公園で行われており、その結果は 0.017pg-TEQ/g で環境基準(1,000pg-TEQ/g 以下)を達成していた。

表 3-1-2 名古屋市環境保全条例に基づく形質変更時届出管理区域の概要

指定番号	指定日	所在地	面積	分類	指定に係る 特定有害物質の種類	適合しない 基準項目
菅-115	平成 29 年 10 月 5 日	名古屋市南区笠寺町字松東 58 番 1 の一部並びに前浜通 7 丁目 11 番の一部、12 番の 一部及び 13 番の一部	約 360m ²	一般 管理 区域	砒素及びその化合物	溶出量基準
					ふっ素及びその化合物	溶出量基準

出典:「名古屋市環境保全条例に基づく区域の指定」(名古屋市ウェブサイト)

表 3-1-3 ダイオキシン類の調査結果

地点名	所在地	調査年月日	調査結果	環境基準
千鳥公園	南区天白町	平成 29 年 7 月 19 日	0.017pg-TEQ/g	1,000pg-TEQ/g 以下

出典:「平成 29 年度 ダイオキシン類調査結果」(名古屋市、平成 30 年)

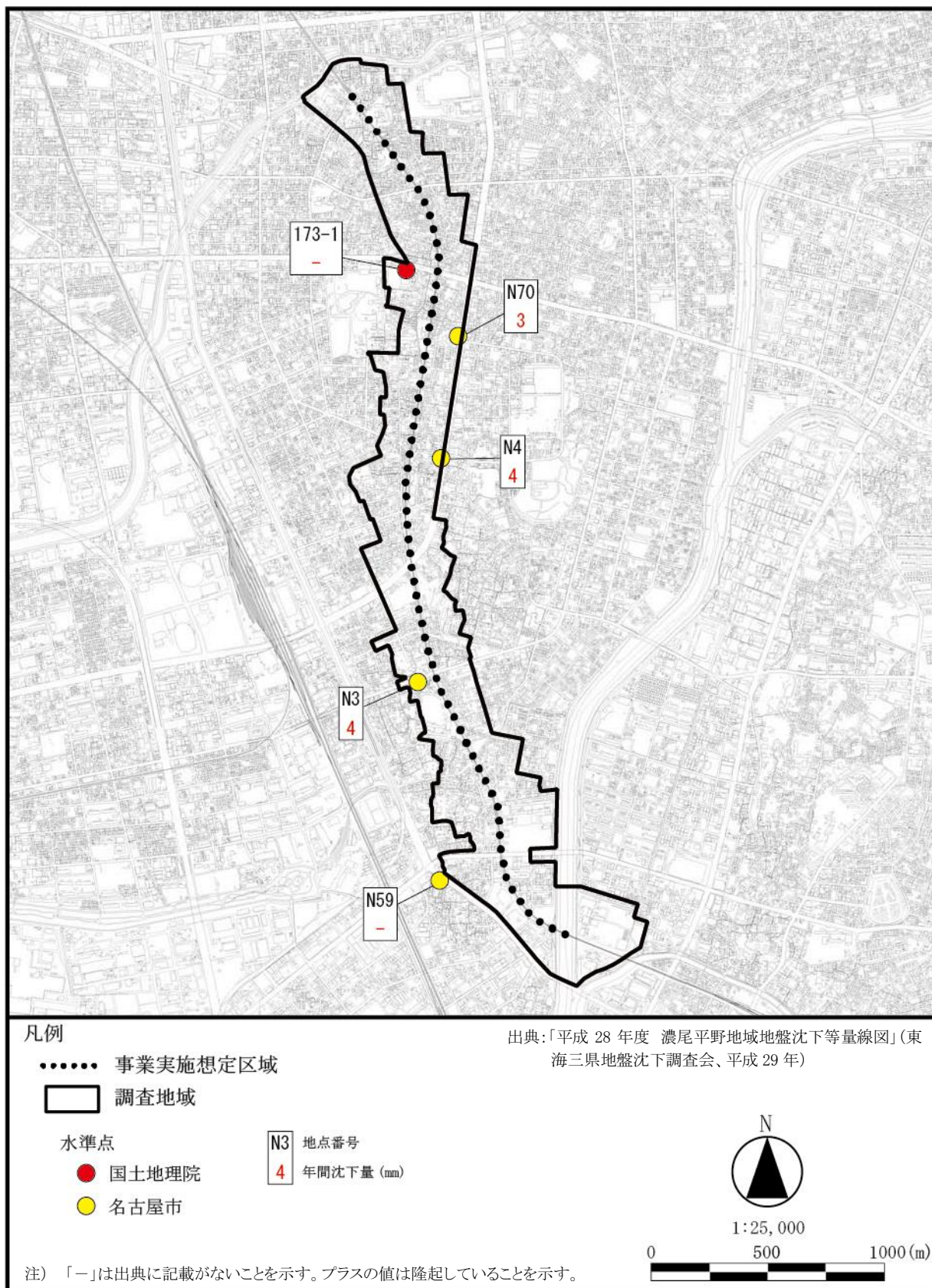


図 3-1-3 水準点の配置状況



図 3-1-4 土壌図

3-1-2 水環境の状況

(1) 水象

調査地域周辺における主な河川は、2 級河川天白川、2 級河川山崎川等がある。
河川の状況を図 3-1-5 に示す。



図 3-1-5 河川の状況、水質調査地点

(2) 水質

ア 河川

調査地域周辺の公共用水域のうち、河川の水質調査は名古屋市により実施されている。

調査地域周辺における河川の水質調査地点を表 3-1-4 に、位置を図 3-1-5 に示す。

表 3-1-4 河川水質の調査地点

水域名	調査地点		生活環境項目	健康項目	実施者
	水質汚濁防止法に基づく調査地点	名古屋市環境保全条例に基づく調査地点			
天白川	天白橋	—	○	○	名古屋市
扇川	—	鳴海橋	○	○	

注) 1. 平成 29 年度の測定状況である。

2. 「○」は測定している項目、「—」は該当しないことを示す。

3. 調査地域周辺において、山崎川に水質調査地点は存在しない。

出典:「平成 29 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

(ア) 生活環境の保全に関する環境基準（生活環境項目、水質の汚濁に関する項目）

調査地域周辺における生活環境項目（水質の汚濁に関する項目）の調査結果を表 3-1-5 に示す。

天白橋は環境基準 C 類型および環境目標値の地域区分☆☆に指定されており、全ての項目で環境基準及び環境目標値に適合している。鳴海橋は環境目標値の地域区分☆☆☆に指定されており、全ての項目で環境目標値に適合している。

表 3-1-5(1) 生活環境項目（水質の汚濁に関する項目）の河川水質調査結果（平成 29 年度）

項目 調査地点	天白川					環境基準 (C類型)	環境目標値 (☆☆)
	天白橋						
	最低	最高	平均 (75%値)	m/n	x/y		
pH	7.2	7.6	7.4	0/12	0/12	6.5以上8.5以下	6.5以上8.5以下
DO (mg/L)	6.9	9.2	8.3	0/12	0/12	5以上	5以上
BOD (mg/L)	1.6	6.3	3.6 (4.3)	3/12	3/12	5以下	5以下
SS (mg/L)	1	8	4	0/12	0/12	50以下	15以下

注) 1. BODについて、年間の環境基準の評価は日平均値の75%値で評価を行う。BODの平均欄の()内の値は75%値を示す。

2. m/nは「環境基準に適合しなかった日数/総測定日数」、x/yは「環境目標値に適合しなかった日数/総測定日数」を示す。

出典:「平成29年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 3-1-5(2) 生活環境項目(水質の汚濁に関する項目)の河川水質調査結果 (平成 29 年度)

項目 調査地点	扇川				環境目標値 (☆☆☆)
	鳴海橋				
	最低	最高	平均 (75%値)	x/y	
pH	7.2	7.6	7.4	0/12	6.5以上8.5以下
DO (mg/L)	4.2	10	7.8	2/12	5以上
BOD (mg/L)	0.8	2.6	1.5 (1.5)	0/12	3以下
SS (mg/L)	1	9	3	0/12	10以下
ふん便性 大腸菌群数 (個/100mL)	63	4,600	980	2/12	1,000以下

注) 1. BODについて、年間の環境基準の評価は日平均値の75%値で評価を行う。BODの平均欄の()内の値は75%値を示す。

2. x/yは「環境目標値に適合しなかった日数/総測定日数」を示す。

出典:「平成29年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 3-1-5(3) 生活環境項目(水質の汚濁に関する項目)の河川水質調査結果 (平成 29 年度)

項目 \ 調査地点	天白川			環境基準 (C類型)	環境目標値 (☆☆)
	天白橋				
	測定値	m/n	x/y		
全亜鉛 (mg/L)	0.026	0/1	0/1	0.03以下	0.03以下
ノニルフェノール (mg/L)	<0.00006	0/1	0/1	0.002以下	0.002以下
LAS (mg/L)	0.0037	0/1	0/1	0.05以下	0.05以下

注) m/nは「環境基準に適合しなかった日数/総測定日数」、x/yは「環境目標値に適合しなかった日数/総測定日数」を示す。

出典:「平成29年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

表 3-1-5(4) 生活環境項目(水質の汚濁に関する項目)の河川水質調査結果 (平成 29 年度)

項目 \ 調査地点	扇川				環境目標値 (☆☆☆)
	鳴海橋				
	最低	最高	平均・測定値	x/y	
全亜鉛 (mg/L)	0.009	0.031	0.019	1/4	0.03以下
ノニルフェノール (mg/L)			<0.00006	0/1	0.002以下
LAS (mg/L)			0.0018	0/1	0.05以下

注) x/yは「環境目標値に適合しなかった日数/総測定日数」を示す。

出典:「平成29年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

(イ) 人の健康の保護に関する環境基準（健康項目、水の安全性に関する項目）

調査地域周辺における健康項目（水の安全性に関する項目）の調査結果を表 3-1-6 に示す。

天白橋は環境基準に適合、鳴海橋は環境目標値に適合している。

表 3-1-6 健康項目（水の安全性に関する項目）の河川水質調査結果（平成 29 年度）

項目		調査地点		環境基準 環境目標値
		天白川	扇川	
		天白橋	鳴海橋	
カドミウム	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.003以下
全シアン	mg/L	ND	ND	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	<0.005	0.01以下
六価クロム	mg/L	<0.01	<0.01	0.05以下
砒素	mg/L	<0.005	<0.005	0.01以下
総水銀	mg/L	—	<0.0005	0.0005以下
アルキル水銀	mg/L	—	—	検出されないこと
PCB	mg/L	—	ND	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	<0.002	0.02以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	<0.0004	0.004以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	<0.01	0.1以下
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	<0.004	0.04以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.1	<0.1	1以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	<0.001	0.01以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	<0.0005	0.01以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	<0.0002	0.002以下
チウラム	mg/L	<0.0006	<0.0006	0.006以下
シマジン	mg/L	<0.0003	<0.0003	0.003以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	<0.002	0.02以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	<0.001	0.01以下
セレン	mg/L	<0.002	<0.002	0.01以下
硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	mg/L	2.2	0.89	10以下
ふっ素	mg/L	<0.08	0.15	0.8以下
ほう素	mg/L	0.04	0.21	1以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	<0.005	0.05以下

注) 1. 天白橋の1,4-ジオキサンは全4回の平均値、天白橋のその他の項目は全2回の平均値、鳴海橋は1回の測定値である。

2. 「検出されないこと」とは、定められた方法により測定した場合において、その結果が当該方法の定量限界を下回ることをいう。

3. 「ND」は測定下限値未満、「—」は測定を行っていないことを示す。

出典:「平成29年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

(ウ) ダイオキシン類

調査地域周辺の河川において、ダイオキシン類の調査は行われていない。

(エ) 底質

調査地域周辺の河川において、底質の調査は行われていない。

イ 地下水

調査地域周辺における地下水質調査地点として、南区立脇町において定点調査が行われている。調査地点位置を図 3-1-5 に、調査結果を表 3-1-7 に示す。

地下水質の調査結果として、すべての項目で環境基準を達成している。

なお、調査地域周辺の地下水において、ダイオキシン類の調査は行われていない。

表 3-1-7 地下水質の調査結果(平成 29 年度)

調査地点		南区立脇町	環境基準
使用用途		工業用水	
井戸の区分		深井戸	
採水年月日		平成 29 年 9 月 25 日	
カドミウム	mg/L	<0.0005	0.003 以下
全シアン	mg/L	<0.1	検出されないこと
鉛	mg/L	<0.005	0.01 以下
六価クロム	mg/L	<0.01	0.05 以下
砒素	mg/L	<0.005	0.01 以下
総水銀	mg/L	<0.0005	0.0005 以下
PCB	mg/L	<0.0005	検出されないこと
ジクロロメタン	mg/L	<0.002	0.02 以下
四塩化炭素	mg/L	<0.0002	0.002 以下
クロロエチレン	mg/L	<0.0002	0.002 以下
1,2-ジクロロエタン	mg/L	<0.0004	0.004 以下
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	<0.01	0.1 以下
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	<0.004	0.04 以下
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	<0.0005	1 以下
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	<0.0006	0.006 以下
トリクロロエチレン	mg/L	<0.001	0.01 以下
テトラクロロエチレン	mg/L	<0.0005	0.01 以下
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	<0.0002	0.002 以下
チウラム	mg/L	<0.0006	0.006 以下
シマジン	mg/L	<0.0003	0.003 以下
チオベンカルブ	mg/L	<0.002	0.02 以下
ベンゼン	mg/L	<0.001	0.01 以下
セレン	mg/L	<0.002	0.01 以下
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素	mg/L	<0.10	10 以下
ふっ素	mg/L	<0.08	0.8 以下
ほう素	mg/L	<0.02	1 以下
1,4-ジオキサン	mg/L	<0.005	0.05 以下

注) 1. 「<」は、報告下限値未満であることを表す。

2. 環境基準欄の「検出されないこと」とは、全シアンについては 0.1mg/L 未満、PCB については 0.0005mg/L 未満であることを示す。

出典:「平成 29 年度公共用水域及び地下水の水質常時監視結果」(名古屋市ウェブサイト)

3-1-3 大気環境の状況

(1) 気象

事業実施想定区域の近辺における気象官署として、北東約 7km に名古屋地方気象台(名古屋市千種区日和町)がある。気象官署の位置を図 3-1-6 に示す。



出典:「気象台の所在地・業務」(名古屋地方気象台ウェブサイト)

図 3-1-6 気象官署の位置

ア 気温・降雨量

名古屋地方気象台における月別平均気温及び降雨量の平年値を表 3-1-8 及び図 3-1-7 に示す。

月別平均気温は、最高が 8 月の 27.8℃、最低が 1 月の 4.5℃となっており、月別降雨量は、最大が 9 月の 234.4mm、最小が 12 月の 45.0mm であり、年間降雨量は 1,535.3mm である。

イ 風向・風速

名古屋地方気象台における月別平均風速の平年値及び最多風向を表 3-1-8 に、名古屋地方気象台における平成 29 年度の風配図を図 3-1-8 に示す。

平年値をみると、年間最多風向は北北西で、平均風速は 2.9m/s となっている。

平成 29 年度の最多風向は北北西となっている。

ウ 日射量

名古屋地方気象台における月別の平均全天日射量の平年値を表 3-1-8 及び図 3-1-9 に示す。

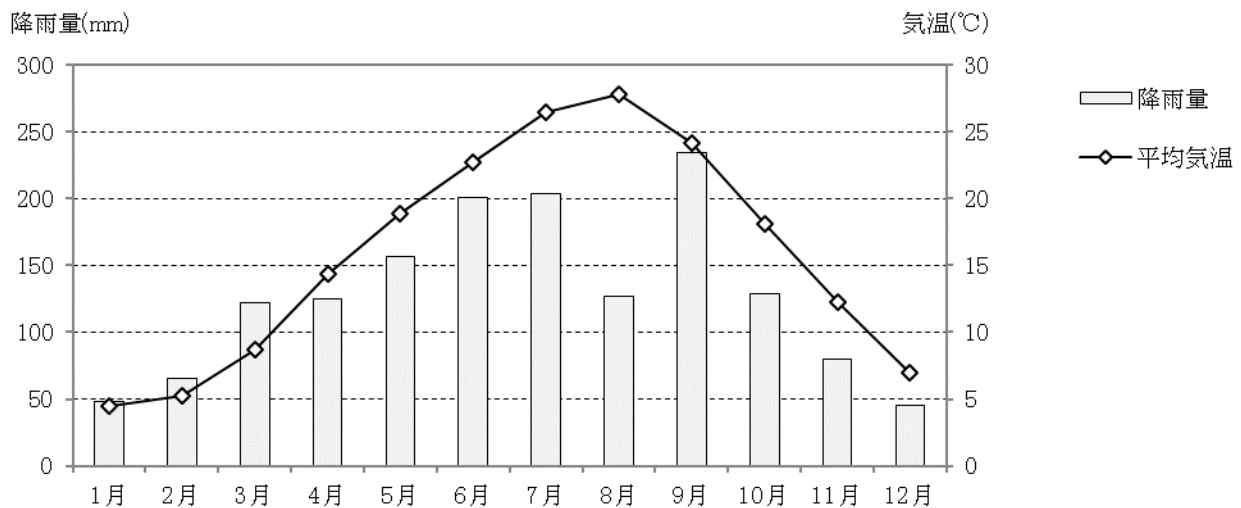
全天日射量の最大が 5 月の 17.7MJ/m^2 、最小が 12 月の 8.4MJ/m^2 となっており、年間平均は 13.5MJ/m^2 である。

表 3-1-8 名古屋地方気象台における平年値

(統計期間 昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年))

	平均気温(℃)	降雨量(mm)	平均風速(m/s)	最多風向	平均全天日射量(MJ/m^2)
1 月	4.5	48.4	3.1	北北西	9.1
2 月	5.2	65.6	3.4	北北西	11.8
3 月	8.7	121.8	3.5	北北西	14.2
4 月	14.4	124.8	3.3	北北西	16.9
5 月	18.9	156.5	3.0	北北西	17.7
6 月	22.7	201.0	2.7	南南東	16.0
7 月	26.4	203.6	2.7	南南東	16.1
8 月	27.8	126.3	2.9	南南東	17.2
9 月	24.1	234.4	2.7	北北西	13.4
10 月	18.1	128.3	2.6	北北西	11.5
11 月	12.2	79.7	2.6	北北西	9.4
12 月	7.0	45.0	2.8	北北西	8.4
年間	15.8	1,535.3	2.9	北北西	13.5

出典:「過去の気象データ検索」(気象庁ウェブサイト)

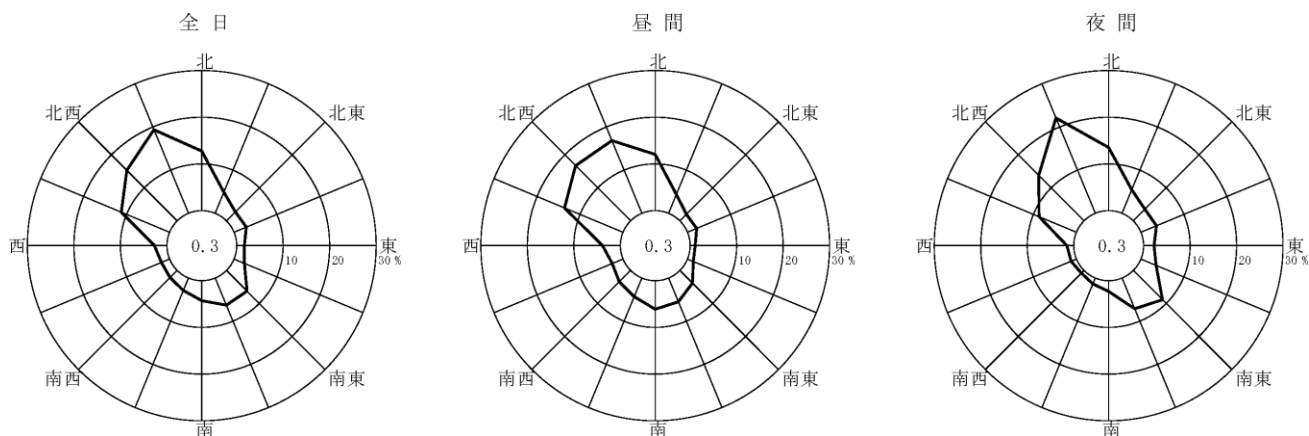


出典:「過去の気象データ検索」(気象庁ウェブサイト)

図 3-1-7 名古屋地方気象台における月別平均気温及び降雨量の平年値

(統計期間 昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年))

名古屋地方気象台



- 注) 1. 単位: %、グラフ内一目盛につき 10%となっている。
 2. 円内の数字は静穏率(風速 0.3m/s 未満; %)を示す。
 3. 昼夜間の区分は以下のとおりとする。

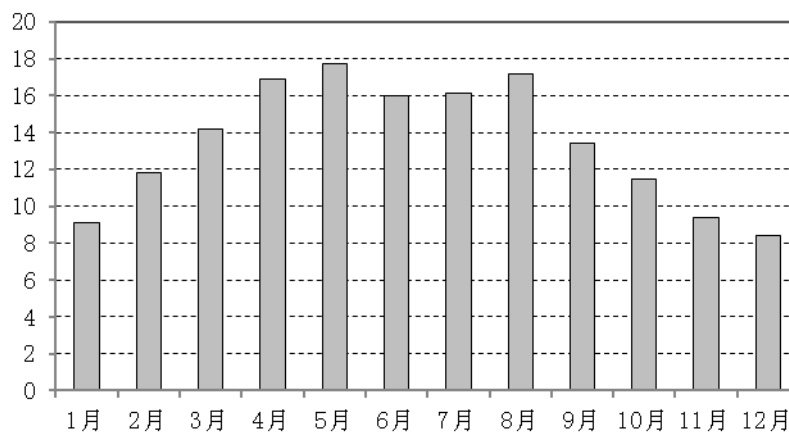
月	昼間	夜間	月	昼間	夜間	月	昼間	夜間
1	7～17時	18～6時	5	5～18時	19～4時	9	6～18時	19～5時
2	7～17時	18～6時	6	5～19時	20～4時	10	6～17時	18～5時
3	7～18時	19～6時	7	5～19時	20～4時	11	7～16時	17～6時
4	6～18時	19～5時	8	6～18時	19～5時	12	7～16時	17～6時

出典:「過去の気象データ検索」(気象庁ウェブサイト)

図 3-1-8 名古屋地方気象台における風配図

(統計期間 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月)

平均全天日射量
(MJ/m²)



出典:「過去の気象データ検索」(気象庁ウェブサイト)

図 3-1-9 名古屋地方気象台における月別平均全天日射量の平年値

(統計期間 昭和 56 年(1981 年)～平成 22 年(2010 年))

(2) 大気質

調査地域周辺の大気汚染の調査地点は、名古屋市の常時監視測定局として白水小学校、大高北小学校、千竈、元塩公園の計4地点がある。

また、ダイオキシン類の調査地点として、瑞穂保健所の1地点がある。

調査項目について表 3-1-9 に、調査地点の位置を図 3-1-10 に示す。

表 3-1-9 大気質の調査項目

調査地点	局属性	二酸化硫黄	二酸化窒素	一酸化炭素	浮遊粒子状物質	光化学オキシダント	微小粒子状物質	ダイオキシン類	調査主体
白水小学校	一般局	○	○	—	○	○	○	—	名古屋市
大高北小学校	一般局	—	○	—	○	○	○	—	
千竈	自排局	—	○	—	○	—	○	—	
元塩公園	自排局	—	○	○	○	—	○	—	
瑞穂保健所	—	—	—	—	—	—	—	○	

注) 1. 平成 29 年度の調査状況である。

2. 「○」は調査している項目、「—」は調査していない項目を示す。

3. 平成 30 年 4 月 1 日より、瑞穂保健所は瑞穂保健センターに名称変更されている。

出典:「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)

「平成 29 年度 ダイオキシン類調査結果」(名古屋市、平成 30 年)

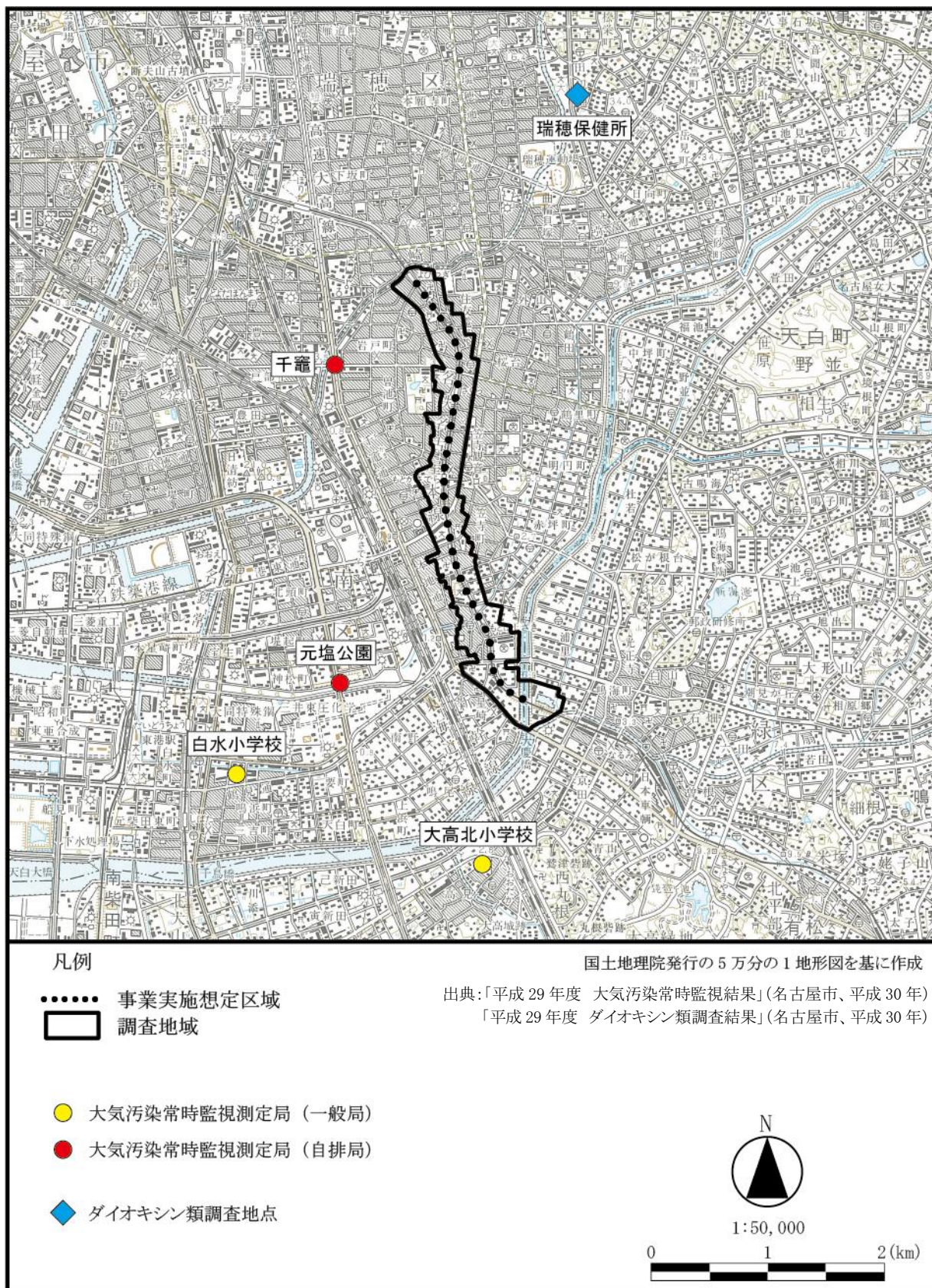


図 3-1-10 大気質調査地点

ア 二酸化硫黄 (SO₂)

二酸化硫黄の平成 29 年度の調査結果を表 3-1-10 に、過去 5 年間における経年変化を図 3-1-11 に示す。

白水小学校においては、長期的評価方法に基づく環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している状況である。

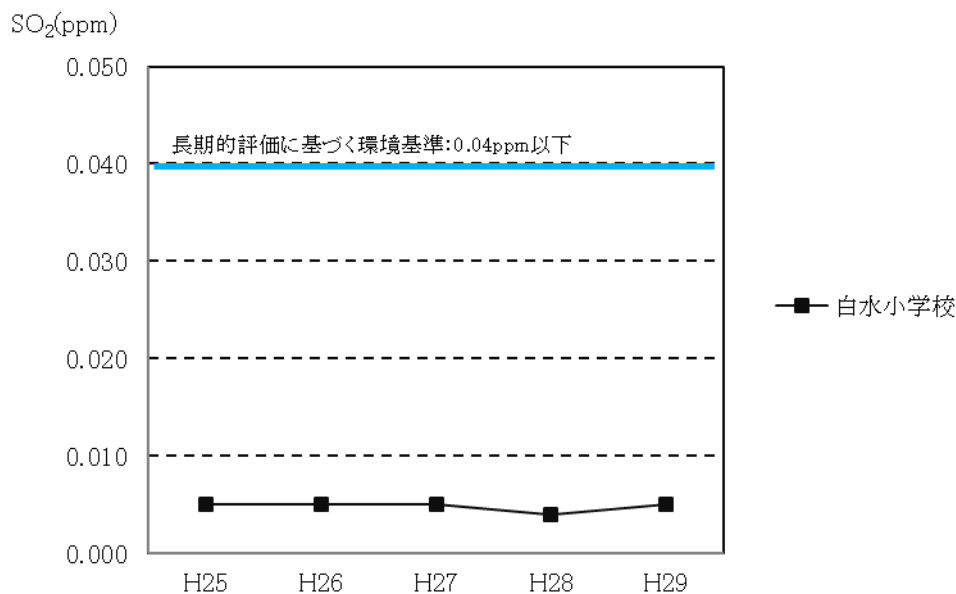
表 3-1-10 二酸化硫黄の調査結果(平成 29 年度)

調査地点	有効 測定 日数	測定 時間	年 平均値	環境基準との対比				1 時間 値の 最高値	日平均 値の 2% 除外値	日平均値が 0.04ppm を 超えた日が 2 日以上連続した ことの有無	長期的評価 による環境 基準の適否
				1 時間値が 0.1ppm を 超えた時間数と その割合		日平均値が 0.04ppm を 超えた日数と その割合					
	日	時間	ppm	時間	%	時間	%	ppm	ppm	有:× 無:○	適:○ 否:×
白水小学校	363	8,648	0.001	0	0	0	0	0.035	0.005	○	○

備考)環境基準;p.3-2-23 の表 3-2-11 参照

環境基準の長期的評価;年間にわたる 1 日平均値である測定値につき、測定値の高い方から 2%の範囲内にあるものを除外した値が 0.04ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.04ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。(昭和 48 年 6 月 環境省 環大企第 143 号)

出典:「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)



出典:「平成 25～29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 26 年～30 年)

図 3-1-11 二酸化硫黄の経年変化(日平均値の 2%除外値)

イ 二酸化窒素 (NO₂)

二酸化窒素の平成 29 年度の調査結果を表 3-1-11 に、過去 5 年間ににおける経年変化を図 3-1-12 に示す。

いずれの地点においても、長期的評価方法に基づく環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している状況である。

また、元塩公園を除き、環境目標値を達成している。

表 3-1-11 二酸化窒素の調査結果(平成 29 年度)

調査地点	有効測定日数	測定時間	年平均値	日平均値が 0.06ppm を超えた日数とその割合		日平均値が 0.04ppm 以上 0.06ppm 以下の日数とその割合		1 時間値の最高値	日平均値の年間 98% 値	長期的評価による環境基準の適否 (環境目標値の適否)
	日	時間	ppm	日	%	日	%	ppm	ppm	適:○ 否:×
白水小学校	363	8,650	0.018	0	0	4	1.1	0.079	0.039	○ (○)
大高北小学校	360	8,602	0.015	0	0	0	0	0.087	0.032	○ (○)
千竈	363	8,653	0.019	0	0	2	0.6	0.082	0.038	○ (○)
元塩公園	359	8,559	0.028	0	0	32	8.9	0.088	0.047	○ (×)

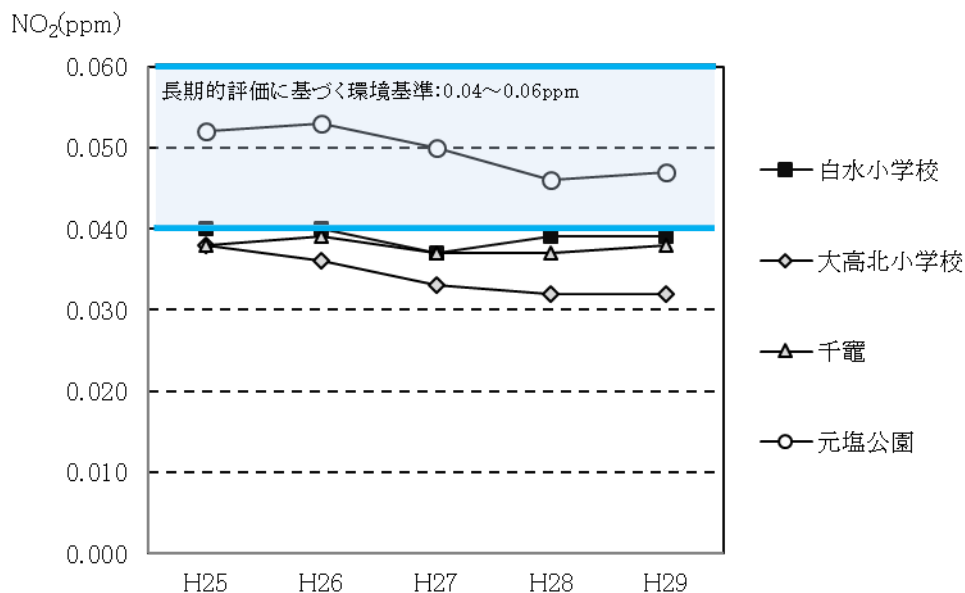
備考) 環境基準; p.3-2-23 の表 3-2-11 参照

環境目標値; p.3-2-25 の表 3-2-15 参照

環境基準の長期的評価; 年間における二酸化窒素の 1 日平均値のうち、低い方から 98% に相当するものが 0.04ppm から 0.06ppm までのゾーン内又はそれ以下の場合は環境基準が達成されているものとする。(昭和 53 年 7 月 環境省 環大企第 262 号)

環境目標値の評価; 環境基準と同一とする。

出典: 「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)



出典: 「平成 25~29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 26 年~30 年)

図 3-1-12 二酸化窒素の経年変化(日平均値の年間 98% 値)

ウ 一酸化炭素 (CO)

一酸化炭素の平成 29 年度の調査結果を表 3-1-12 に、過去 5 年間における経年変化を図 3-1-13 に示す。

元塩公園においては、長期的評価方法に基づく環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している状況である。

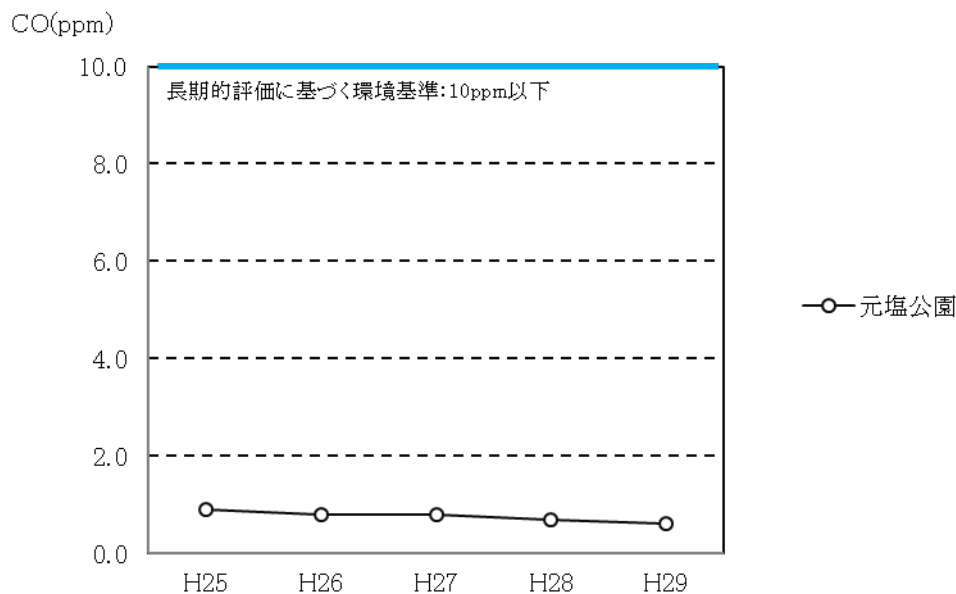
表 3-1-12 一酸化炭素の調査結果(平成 29 年度)

調査地点	有効 測定 日数	測定 時間	年 平均値	環境基準との対比				1 時間 値の 最高値	日平均 値の 年間 2% 除外値	日平均値が 10ppm を超えた 日が 2 日以上 連続したことの有無	長期的評価 による 環境基準の 適否
				8 時間値が 20ppm を超えた 時間数とその割合		日平均値が 10ppm を超えた 日数とその割合					
	日	時間	ppm	時間	%	日	%	ppm	ppm	有:× 無:○	適:○ 否:×
元塩公園	361	8,593	0.4	0	0	0	0	4.8	0.6	○	○

備考) 環境基準; p.3-2-23 の表 3-2-11 参照

環境基準の長期的評価; 年間にわたる 1 日平均値である測定値につき、測定値の高い方から 2% の範囲内にあるものを除外した値が 10ppm 以下であること。ただし、1 日平均値が 10ppm を超えた日が 2 日以上連続しないこと。(昭和 48 年 6 月 環境省 環大企第 143 号)

出典: 「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)



出典: 「平成 25~29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 26 年~30 年)

図 3-1-13 一酸化炭素の経年変化(日平均値の 2%除外値)

エ 浮遊粒子状物質（SPM）

浮遊粒子状物質の平成 29 年度の調査結果を表 3-1-13 に、過去 5 年間における経年変化を図 3-1-14 に示す。

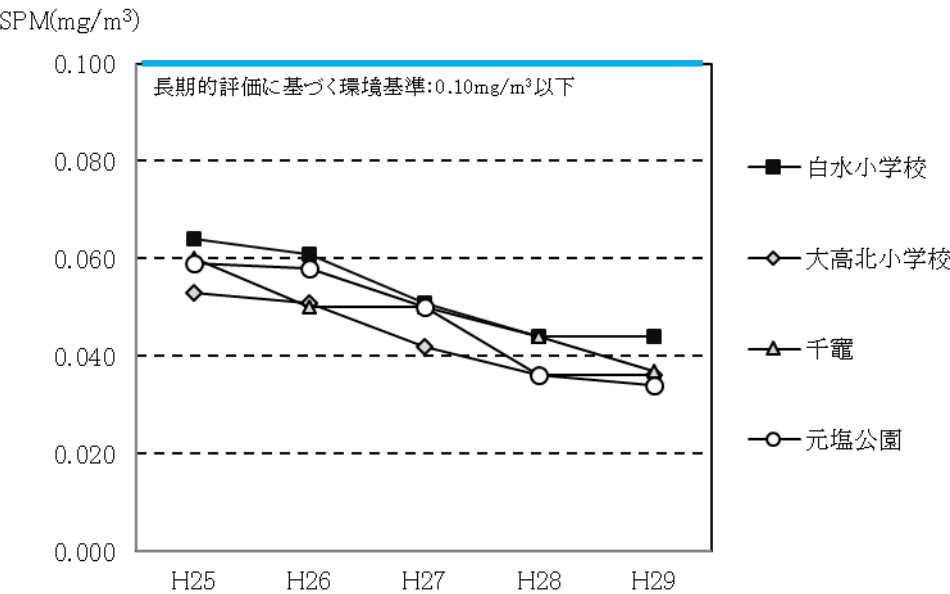
いずれの地点においても、長期的評価方法に基づく環境基準を達成しており、過去 5 年間についても達成している状況である。

また、いずれの地点においても、市民の健康の保護に係る環境目標値は達成しており、快適な生活環境の確保に係る環境目標値は非達成の状況である。

表 3-1-13 浮遊粒子状物質の調査結果(平成 29 年度)

調査地点	有効 測定 日数	測定 時間	年 平均値	環境基準との対比				1 時間 値の 最高値	日平均 値の 年間 2% 除外値	日平均値が 0.10mg/m³を 超えた日が 2 日以上 連続した ことの有無	長期的評 価による 環境基準 の適否	環境目標値の適否	
				1 時間値が 0.20mg/m³ を超えた 時間数と その割合		日平均値が 0.10mg/m³を 超えた 日数と その割合						市民の 健康の 保護	快適な 生活環境 の確保
	日	時間	mg/m³	時間	%	日	%	mg/m³	mg/m³	有: × 無: ○	適: ○ 否: ×		
白水小学校	363	8,700	0.019	0	0	0	0	0.119	0.044	○	○	○	×
大高北小学校	363	8,698	0.017	0	0	0	0	0.075	0.036	○	○	○	×
千竈	363	8,701	0.018	0	0	0	0	0.101	0.037	○	○	○	×
元塩公園	360	8,618	0.017	0	0	0	0	0.072	0.034	○	○	○	×

備考) 環境基準;p.3-2-23 の表 3-2-11 参照
環境目標値;p.3-2-25 の表 3-2-15 参照
環境基準の長期的評価;年間にわたる 1 日平均値である測定値につき、測定値の高い方から 2%の範囲内にあるものを除外した値が 0.10mg/m³ 以下であること。ただし、1 日平均値が 0.10mg/m³ を超えた日が 2 日以上連続しないこと。(昭和 48 年 6 月 環境省 環大企第 143 号)
市民の健康の保護に係る環境目標値の評価;環境基準と同一とする。
快適な生活環境の確保に係る環境目標値の評価;1 年平均値が 0.015mg/m³ 以下であること。
出典:「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)



出典:「平成 25～29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 26 年～30 年)

図 3-1-14 浮遊粒子状物質の経年変化(日平均値の 2%除外値)

オ 光化学オキシダント (Ox)

光化学オキシダントの平成 29 年度の調査結果を表 3-1-14 に、過去 5 年間における経年変化を図 3-1-15 に示す。

いずれの地点においても、環境基準が非達成の状況となっており、過去 5 年間についても非達成の状況である。なお、これは当該地域特有の傾向ではなく、全国的な傾向である。

また、いずれの地点においても、環境目標値が非達成の状況である。

表 3-1-14 光化学オキシダントの調査結果(平成 29 年度)

調査地点	昼間 測定 日数	昼間 測定 時間	昼間の 1 時間値の 年平均値	環境基準との対比				昼間の 1 時間値が 0.12ppm 以上の 日数及び時間数と その割合				昼間の 1 時間値の 最高値	環境基準 の適否 (環境目標 値の適否)
				昼間の 1 時間値が 0.06ppm を超えた 日数及び時間数と その割合									
	日	時間	ppm	時間	%	日	%	時間	%	日	%	ppm	適:○ 否:×
白水小学校	365	5,422	0.032	370	6.8	80	21.9	0	0	0	0	0.115	×(×)
大高北小学校	365	5,425	0.033	455	8.4	97	26.6	0	0	0	0	0.110	×(×)

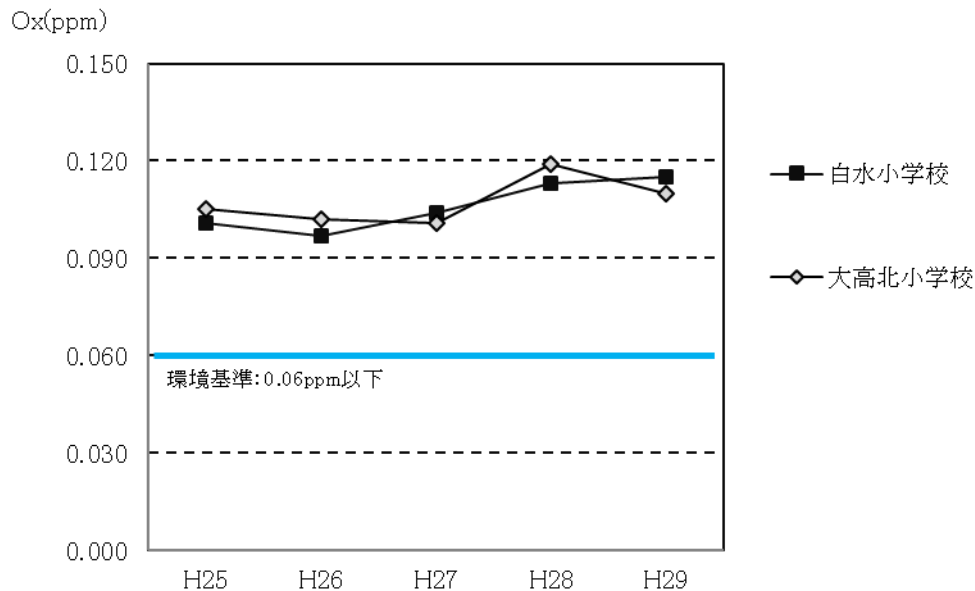
備考) 環境基準; p.3-2-23 の表 3-2-11 参照

環境目標値; p.3-2-25 の表 3-2-15 参照

環境基準の短期的評価; 年間を通じて、1 時間値が 0.06ppm 以下であること。ただし、5 時から 20 時の昼間時間帯について評価する。(昭和 48 年 6 月 環境省 環大企第 143 号)

環境目標値の評価; 環境基準と同一とする。

出典: 「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)



出典: 「平成 25～29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 26 年～30 年)

図 3-1-15 光化学オキシダントの経年変化(昼間の 1 時間値の最高値)

カ 微小粒子状物質 (PM2.5)

微小粒子状物質の平成 29 年度の調査結果を表 3-1-15 に、過去 5 年間における経年変化を図 3-1-16 に示す。

いずれの地点においても環境基準を達成しており、過去 5 年間のうち直近の 2 年間に達している状況である。

また、いずれの地点においても、環境目標値を達成している。

表 3-1-15 微小粒子状物質の調査結果(平成 29 年度)

調査地点	有効測定日数	環境基準との対比				短期基準による環境基準の適否	長期基準による環境基準の適否	環境目標値の適否
		1 日平均値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ を超えた日数とその割合		1 日平均値の年間 98 パーセンタイル値	年平均値			
		日	%	$\mu\text{g}/\text{m}^3$	$\mu\text{g}/\text{m}^3$			
白水小学校	357	2	0.6	30.3	13.9	○	○	○
大高北小学校	363	2	0.6	27.3	12.0	○	○	○
千竈	357	2	0.6	27.8	12.1	○	○	○
元塩公園	360	5	1.4	31.5	14.1	○	○	○

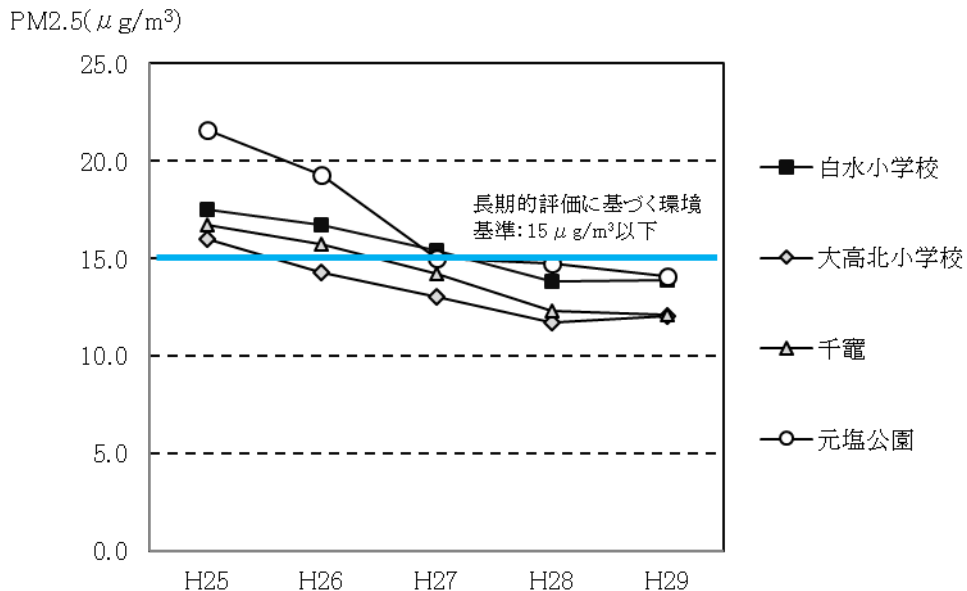
備考) 環境基準; p.3-2-24 の表 3-2-13 参照

環境目標値; p.3-2-25 の表 3-2-15 参照

環境基準の評価; 1 年平均値が $15\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であり(長期基準)、かつ、1 日平均値のうち 98 パーセンタイル値が $35\mu\text{g}/\text{m}^3$ 以下であること(短期基準)。(平成 21 年 9 月 環境省 環水大総発第 090909001 号)

環境目標値の評価; 環境基準と同一とする。

出典: 「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)



出典: 「平成 25~29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 26 年~30 年)

図 3-1-16 微小粒子状物質の経年変化(年平均値)

キ ダイオキシン類

ダイオキシン類の平成29年度の調査結果を表3-1-16に、過去5年間における経年変化を図3-1-17に示す。

瑞穂保健所は環境基準を達成しており、過去5年間についても達成している状況である。

表 3-1-16 ダイオキシン類の調査結果(平成29年度)

調査地点	調査結果(pg-TEQ/m ³)					環境基準の適否
	春季	夏季	秋季	冬季	年間平均値	適:○ 否:×
瑞穂保健所	0.013	0.0097	0.015	0.025	0.016	○

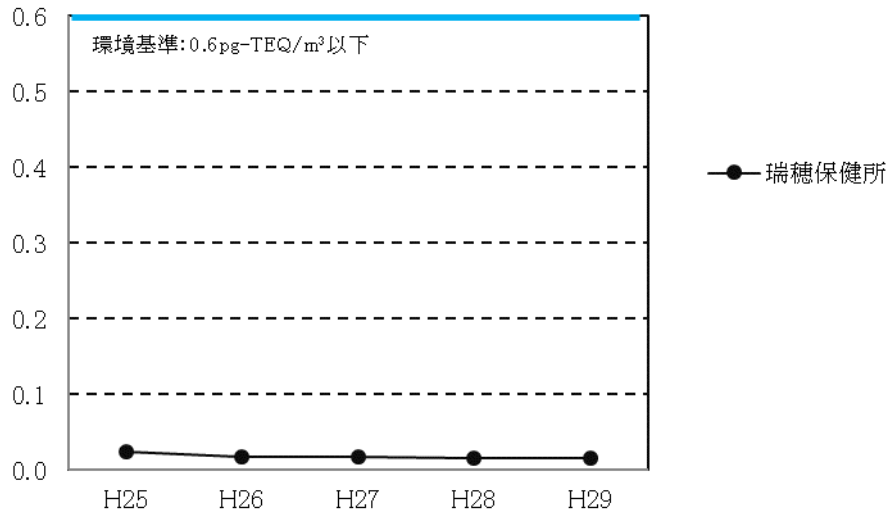
調査時期:(春季)平成29年5月10日～5月17日、(夏季)平成29年7月26日～8月2日、
(秋季)平成29年10月11日～10月18日、(冬季)平成30年1月17日～1月24日

備考)環境基準;年間平均値が0.6pg-TEQ/m³以下

注)平成30年4月1日より、瑞穂保健所は瑞穂保健センターに名称変更されている。

出典:「平成29年度 ダイオキシン類調査結果」(名古屋市、平成30年)

ダイオキシン類
(pg-TEQ/m³)



出典:「平成25～29年度 ダイオキシン類調査結果」(名古屋市、平成26年～30年)

図 3-1-17 ダイオキシン類年平均値の経年変化(年平均値)

ク 有害大気汚染物質

(ア) 環境基準が定められている物質

有害大気汚染物質(環境基準が定められている物質)の平成 29 年度の調査結果を表 3-1-17 に示す。

いずれの地点においても、環境基準を達成している。

表 3-1-17 有害大気汚染物質(環境基準が定められている物質)の調査結果(平成 29 年度)

調査地点	調査結果($\mu\text{g}/\text{m}^3$)			
	環境基準の適否 適:○、否:×			
	ベンゼン	トリクロロエチレン	テトラクロロエチレン	ジクロロメタン
白水小学校	1.1	0.78	0.36	2.4
	○	○	○	○
元塩公園	1.1	0.76	0.33	3.1
	○	○	○	○
環境基準	3 以下	200 以下	200 以下	150 以下

出典:「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)

(イ) 指針値が定められている物質

有害大気汚染物質(指針値が定められている物質)の平成 29 年度の調査結果を表 3-1-18 に示す。

いずれの地点においても、指針値以下である。

表 3-1-18 有害大気汚染物質(指針値が定められている物質)の調査結果(平成 29 年度)

測定地点	調査結果									
	指針値の適否 適:○、否:×									
	アクリロ ニトリル ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	塩化ビニル モノマー ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	水銀及び その化合物 (ng/m^3)	ニッケル 化合物 (ng/m^3)	クロロホルム ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1,2-ジクロロ エタン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	1,3-ブタ ジエン ($\mu\text{g}/\text{m}^3$)	ヒ素及び その化合物 (ng/m^3)	マンガン 及びその 化合物 (ng/m^3)	
白水小学校	0.12	0.021	2.1	5.9	0.50	0.15	0.090	0.74	51	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
元塩公園	0.14	0.025	1.4	9.6	0.49	0.16	0.093	1.1	40	
	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
指針値	2 以下	10 以下	40 以下	25 以下	18 以下	1.6 以下	2.5 以下	6 以下	140 以下	

出典:「平成 29 年度 大気汚染常時監視結果」(名古屋市、平成 30 年)